認定医ケースプレゼンテーション抄録

下顎1歯残存歯に磁性アタッチメントを応用した上下顎総義歯の症例

鈴木 彰

Prosthetic Rehabilitation of an Overdenture Patient with Magnetic Attachment on the Mandibular Canine : A Case Report

Akira Suzuki

I. 症例の概要

患者：78歳，女性。

初診：平成7年11月。

主訴：上下顎義歯の不適合および咀嚼障害。

現症：上顎は無歯顎，下顎は1歯残存の多数歯欠損症例である。

上顎義歯は顎堤の吸収により維持力の低下を認め，容易に離脱した。下顎義歯は「3」支台歯にワイヤークラスプが装着されていたが，支台装置の変形と床下粘膜面の不適合のため，安定は低下していた（図1）。また，「3」は軽度の動揺と挺出，さらにX線診査で根尖病巣を認めた（図2）。

II. 診断と治療方針

1. 診断

上下顎義歯不適合による機能障害，「3」慢性根尖性歯周炎。

2. 治療方針

1) 上下顎旧義歯を調整し，咬合関係や床と粘膜の適合状態を改善する。

2) 上下顎義歯の新製作

「3」支台歯は歯冠歯根比の改善を行い，下顎義歯は支

台歯の負担能力を考慮し，さらに高齢患者であることから，義歯の取り扱いが容易な磁性アタッチメントを応用したオーバードンチャーとすることとした¹⁾。

III. 治療内容

平成7年11月：「3」の歯冠部を切断後，下顎旧義歯を総義歯形態のオーバードンチャーとし，上下顎旧義歯の床辺縁部の拡大と床基底面の調整を行った。さらに，下顎安静位をもとに咬合挙上による咬合高径の回復を図った。「3」は歯内療法後，メタルコーピングを装着した。

平成8年1月：新義歯は支台歯を保護するため，頬舌径を小さくした人工歯を選択し，可能なかぎり床を拡大した設計とし，通法に従い上下顎総義歯を製作した（図3-a, b）。

義歯装着後，数回の調整を行い，3週間後，義歯が安定した時点で義歯にマグネットを埋入した（図4）。

IV. 経過観察と考察

治療終了後，山本式総義歯咀嚼能率判定表²⁾を用い，義歯の評価をしたところ，旧義歯では咬度4であったが，新義歯では咬度6と増加し，比較的硬いものでも摂取できるようになり，良好な結果が得られた（表1）。約6カ月ごとの定期検診では，床内面をわずかに調整する程度で義歯は安定して使用されていたが，3年経過時，「3」の頬側歯肉に腫脹と歯肉縁下に根面カリエスを認めた。このため歯肉切除後，修復処置と歯周処置を行った。

新義歯装着後現在まで4年経過したが，義歯は安定

西関東支部（アキラ歯科医院）

神奈川歯科大学歯科補綴学講座（主任：豊田 實教授）

Nishi Kanto Branch (Akira Dental Office)

The Department of Prosthetic Dentistry, Kanagawa Dental College (Chief : Prof. Minoru Toyoda)

表1 Judgement of masticatory efficiency
咀嚼能率の判定 (山本)

咬度	食品	旧義歯	新義歯
6	ピーナッツ	×	○
	古たくあん	×	×
	堅焼せんべい	×	○
	ぞうに餅	×	×
5	フランスパン	×	×
	酢だこ	×	○
	くらげの酢の物	×	○
	らっきょう	○	○
4	かまぼこ	○	○
	こんにやく	○	○
	おこわ	○	○
	ビスケット	○	○
3	ごはん	○	○
	煮魚	○	○
	はんぺん	○	○
	まぐろのさしみ	○	○
2	おかゆ	○	○
	とうふ	○	○
1	スープ	○	○

○：かめる，×：かめない

しており、患者の満足は得られている。しかし、支台歯に歯周炎を認め、デンタルモビリティチェッカー(DMC)による動揺度測定やX線所見(図5)でも歯周病の進行が認められ、治療により一時的に改善するものの再発傾向にある(図6)。

多数歯欠損の場合、可撤性義歯により咬合を回復するケースが多い。しかし補綴装置の種類によっては、支台歯の負担過重、二次カリエス、歯周疾患の進行などを招き、短期間に残存歯の喪失も考えられる。このことから設計や適応症の選択が重要となる。本症例は下顎の支台歯を保護するためにオーバーデンチャーとしたが、高齢患者のため口腔衛生管理や義歯の管理が十分に行えないこともあり、支台歯の歯周組織が不良になりやすくなっている。このことから、今後も定期的な検診と、高齢者の口腔内環境の変化や歯科的管理能力を加味した適切な調整を行う必要があると考える。

文 献

- 1) 田中貴信. 磁性アタッチメント, 東京: 医歯薬出版. 1992.
- 2) 山本為之. 良く噛める総義歯 83-85, 京都: 永末書店, 1993.

図1 Intraoral view at first examination
初診時口腔内所見 図2 Radiographic examination
術前X線写真 図3 Maxillar complete denture and
mandibular overdenture
完成義歯 図4 Tissue side view of denture with magnetic
attachment
磁性アタッチメントを装着した義歯粘膜面観 図5 Radiograph of mandibular
canine after 4 years
術後4年のX線写真 図6 Intraoral view after 4 years
術後4年の口腔内所見